



Title	男孫を表す新語「孫息子」について
Author(s)	高木, 千恵
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2017, 51, p. 39-59
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/71407">https://hdl.handle.net/11094/71407</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 男孫を表す新語「孫息子」について

高木 千恵

キーワード：孫息子／新語／高齢社会／親族語彙／体系のあきま

## 1. はじめに

新聞の読者投稿欄などにおいて、男孫を表現するのに「孫息子」ということばが使用されているのを目にすることがある。たとえば、次のようなものである（二重下線は筆者による。以下同じ）。

- (1) 《投稿／朝日（全国）2012.12.22》<sup>1)</sup>

### ◎冬仕様

5歳の孫息子に「雪が降ったら、自転車は滑るから危ないよ」と注意した。すると、孫が平然と答えた。「パパにタイヤを替えてもらうよ。この前、これをつければ雪でも大丈夫だって、パパが車のタイヤ交換してたから」

（新潟市・自転車にもスタッドレスってある？・61歳）

このような「孫息子」の使用は、記者による文章にも見つけることができる。次例を参照されたい。

- (2) 《記者／朝日（新潟）2013.01.04》

### Uターン客ら、名残を惜しむ JR新潟駅、混雑／新潟県

年末年始をふるさとや行楽地で過ごした人たちのUターンラッシュが3日、県内でもピークを迎えた。新潟市中央区のJR新潟駅は、大きなバッグを抱えた家族連れらで混み合った。

東京から帰省していた娘家族を、新幹線ホームで見送った新発田市のパート従業員富樫三千夫さん（68）は、名残惜しそうだった。

小学4年と1年の孫息子とスキーに行ったり、日帰りで温泉に行ったりしたといい、「来たときはうれしいけど、帰っちゃうと本当に寂しいね。春休みは、向こうに会いに行きたい」と話した。

JR東日本によると、この日、新潟駅発の上越新幹線上りの指定席は、終日ほぼ満席。自由席の乗車率は午後3時18分発の東京行きで120%にのぼった。(勝見壮史)

「孫息子」という語は、後述するように収録されている辞書もわずかであり、現時点では一般的・標準的な日本語としての地位を獲得しているとは言いがたい。しかし、この語によって女孫を指す「孫娘」の対概念を明示的に表せるようになることから、その使用が拡散・定着する可能性は十分にあるものとする。

以上のことをふまえ本稿では、次のことを明らかにしたいと思う。

①出現時期：「孫息子」という語はいつごろから使われるようになったのか。

②使用者：「孫息子」を使用するのはどのような属性の人か。

③使用要因：新聞記事で「孫息子」が使われるようになったのはなぜか。

なお、資料として本稿では新聞データベースを利用する。これは、筆者が「孫息子」という語に最初に触れたのが新聞の読者投稿欄であったことによる。

以下、§2において、国語辞典における「孫息子」の採録状況を確認し、§3で本稿が扱うデータベースの詳細について説明する。続く§4では「孫息子」の出現件数の推移を確認し、社会状況との関連から分析する。§5では対象を毎日新聞の読者投稿記事に絞り、「孫息子」を使用する人のタイプ(属性差)や「孫息子」が使用される要因について考察する。§6はまとめと今後の課題である。

## 2. 新語としての「孫息子」

本節では、男孫を表す「孫息子」の見出し語としての採録状況について複数の国語辞典によって確認したうえで、この語を取り上げた新聞記事についても言及し、この語が近年になって成立した新しい語である可能性を指摘する。

まず、「孫息子」およびその対概念である「孫娘」、上位概念である「孫」について、見出し語として辞書に採録しているかどうかをみるため、以下の辞典に当たった。参照する辞書は、新語「よるごはん」の成立について論じた橋本（2007）を参考に選んだ。

### (3) 「孫息子」採録の有無を確認した国語辞典と、その結果

#### A) 採録あり

- a. 大型辞典 (なし)
- b. 中型辞典 ①『大辞林 第二版』(1995)三省堂
- c. 小型辞典 ②『三省堂国語辞典 第三版』(1982)三省堂

#### B) 採録なし（「孫」「孫娘」のみ採録）

- a. 大型辞典 ③『日本国語大辞典 第二版』(2001)小学館
- b. 中型辞典 ④『旺文社国語辞典』(1982)旺文社、⑤『学研国語大辞典 第二版』(1995)学研、⑥『日本語大辞典 第二版』(1995)講談社、⑦『大辞泉 第二版』(2012)小学館
- c. 小型辞典 ⑧『新選国語辞典 新版』(1974)小学館、⑨『岩波国語辞典 第六版』(2000)岩波書店、⑩『明鏡国語辞典 第二版』(2010)大修館書店、⑪『新明解国語辞典 第七版』(2013)三省堂

(3) に示すとおり、ほとんどの辞書において「孫」「孫娘」だけが収録され、「孫息子」が収録されているのは①『大辞林 第二版』および②『三省堂国語辞典 第三版』のみで、どちらも三省堂によるものである。『三省堂国語

辞典 第三版』における「孫」「孫息子」「孫娘」の意味記述は(4)～(6)のとおりであった。

- (4) まご [孫] (名) (自分の) 子どもの、また子ども。「—むすめ・お—さん」
- (5) まごむすこ [孫息子] (名) 孫にあたる、男の子。(←→孫娘(ムスメ))
- (6) まごむすめ [孫娘] (名) 孫にあたる、女の子。(←→孫息子(ムスコ))

なお、『大辞林』は初版(1988年発行)にも当たることができたが、初版には「孫息子」は採録されておらず、第二版(1995年発行)から採録するようになったことがわかる。

次に、新聞記事やブログにおける「孫息子」の記事について述べる。読売新聞の「日本語・日めくり」のコーナーでは2006年6月に「孫息子」を取り上げ、次のように述べている。

- (7) 《記者／読売(東京)2006.06.27》

#### 日本語・日めくり 孫息子

◎性別で呼び分けますか？

〔引用者注；孫息子は〕子の孫を指すが、あまり使われないうい方。採録している辞書は、大辞林2版、三省堂国語辞典5版など少ない。

「孫娘」なら、古くからある。女兒の場合だけ性別を示すのは、男児を標準とする考え方の表れだろうか。文教大学教授の遠藤織枝さんは、娘の子を、男は外孫、女は外孫女と呼び分ける中国語の影響によるもので、跡継ぎは男という家意識の反映ではと推測する。

遠藤さんが調べたところ、実際には単に「うちの孫」と言う人が圧倒的に多かった。少子化が進み、性別を気にする余裕はないのかもしれない。

この記事からも「孫息子」が新しい語であることが窺える。ただし、この記事の結論とは反対に、新聞紙面においては「孫息子」の用例が少なからず認

められる。記事中の「実際には単に「うちの孫」という人が圧倒的に多かった」というのは、話しことばに限ってのことではないだろうか。

「孫息子」は、新聞紙面だけでなくインターネット上でも使われているようである。読売テレビのアナウンサーである道浦俊彦は、2010年8月に自身のブログ「道浦俊彦TIME「新・ことば事情」」第4128回でこの語を取り上げ、「孫娘」に対して「孫息子」は採録する辞書も少なく一般的とはいえない語であるとしつつ、インターネットで検索してみると少なからず使われていると述べている。道浦によれば、2010年8月27日現在のGoogle検索で「孫娘」が2,140,000件あったのに対して「孫息子」は59,800件であったという。また道浦は『三省堂国語辞典 第六版』（2008年）が見出し語で「孫息子」を採録していることを指摘しているが、同辞書について「新しい言葉を早く採用することで知られる」と述べている。この点については発行元である三省堂のウェブサイトでも、『三省堂国語辞典』を「新語に強い国語辞典」と謳っており、比較的新しい語と考えられる「孫息子」が採録されているのもそのような辞書の特色によるところが大きいと考えられる。

### 3. 資料について

本稿では、「孫息子」の用例を集めるにあたって「聞蔵Ⅱビジュアル」「毎索」「ヨミダス歴史館」を利用した。各データベースの概要は表1に示すとおりである。

本稿ではまず、各データベースのうち本文検索ができる期間のデータを対象に「孫息子」およびその対概念である「孫娘」の使用状況を把握する（§4）。そののち、毎日新聞の1987年以降の記事にしぼって、「孫息子」の使用について詳しく分析する（§5）。

表1 新聞データベース概要

データベース名	内容	本稿で扱う範囲
聞蔵Ⅱビジュアル	朝日新聞（1879-）、『週刊朝日』（1985-）、『AERA』（1988-）のデータを収録。1984年以前のデータは見出しとキーワードによる検索のみ可能。1984年以降のものについては本文検索ができる。	朝日新聞 1984-2012年 (29年分)
毎索	毎日新聞（1872-）、『週刊エコノミスト』（1989-）のデータを収録。1986年以前のデータについては主要記事見出しによるキーワード検索のみ可能。1987年以降のものについては本文検索ができる。	毎日新聞 1987-2012年 (26年分)
ヨミダス歴史館	読売新聞（1874-）、The Japan News（1989-）のデータを収録。1985年以前のデータは見出し語とキーワードによる検索のみ可能。1986年以降のものについては本文検索ができる。	読売新聞 1986-2012年 (27年分)

#### 4. 主要3紙にみる「孫息子」「孫娘」の使用状況

本節では、新聞データベースにみる「孫息子」の使用状況について、「孫娘」と比較しつつみていきたい。

##### 4.1. 「孫息子」の使用状況

データベースから得られた「孫息子」を含む記事件数は全485件であった。これは「孫息子」という語の出現回数ではなく、その語が出現した記事の件数である。同一記事の中で「孫息子」が2回以上使われた場合でも記事件数1件として数えている。各データベースにおける「孫息子」の初出は朝日新聞が1984年、毎日新聞が1993年、読売新聞が1991年で、朝日新聞がもっとも早い。後に述べるとおり、「孫息子」の出現件数がもっとも多いのも朝日新聞である。各紙の「孫息子」初出記事を以下に挙げる。

(8) 《記者／朝日（全国）1984.11.12》

不況にあえぐ、秋田の出稼ぎ農民 事故発生も上昇傾向（ルポ'84）

[…中略…] 羽後町下仙道の小沼千恵さん（43）は、十一年前、夫

を出稼ぎ事故が原因で失った。米を作り、転作の畑にイチゴを植え、女手で一・八ヘクタールの耕地を守り、二人の子を育てた。「無我夢中だったす」。近くの集落に八十代と七十代の老夫婦二人が住む。その米作農家では二十六歳の孫息子と母親が母子心中してしまった。五十代の父親は蒸発したままだ。「原因の一番は肉牛の借金だ。五十頭も入れて最初は良かったが、牛肉の輸入の自由化ってことで値が暴落して返せなくなったんだ。息子には嫁も決まっていたのに」と小沼さんはいふ。タバコや野菜への転作の失敗もその目で見てきた。  
[…以下略]

- (9) 《記者／毎日（東京）1993.05.07》

[フレッシュ] ドラマと歌でデビュー＝藤川なお美さん

◇「チャンスを絶対モノに」

ホームドラマ「谷口六三商店」（TBS火曜夜九時）は、東京の下町に二百年も続くせんべい屋一家七人の物語。孫息子・加勢大周のところへ、インド人の嫁さん・鷺尾いさ子がこし入れすることになって大騒ぎというコメディーだ。スタジオに本物の象を登場させて、視聴者をアツといわせている。[…以下略]

- (10) 《投稿／読売（東京）1991.03.24》

[日曜の広場] 名場面 肩を出すしぐさ

幼稚園年少の孫息子が、ジャンパーのチャックを半分ぐらい開き、肩を出そうとしている。

「何をするの」と聞いたら、ニヤニヤしながら途中でやめた。私の好きなテレビの「遠山の金さん」のまねをしようとしていたのだ。「この桜吹雪を散らせるものなら……」というあの名場面を、いつのまにか孫も好きになり、片肌を脱ぐまねをしてみたいのだろう。

友達同士で遊んでいる時は、きっとやってるなど、思わず苦笑した。

[青森県八戸市・男性・無職・68歳]<sup>2)</sup>

上に挙げたとおり、朝日新聞・毎日新聞の初出記事はどちらも記者原稿である。読者投稿による「孫息子」の初出はそれぞれ1988年2月、1998年6月である。読売新聞の初出（10）は読者投稿の記事だが、同年9月の記者原稿に「孫息子」の使用がみられる。ただし、次に挙げるようにインタビューにおける話し手のことばの引用部分での使用である。読売新聞の記者原稿記事において「孫息子」が出現するのは1992年に入ってからである。

(11) 《記者／読売（東京）1991.09.23》

**[時間デザイン] エッセイスト・大塚ひかりさん 日常楽しむ“古典主婦”**

[…中略…] 一方で、月に四日間、広告の紹介記事を専門誌に書くための取材をする。これは「資料代を稼ぐため」。そんな日常のなかで、いま熱中しているのが「系図作り」だ。

「歴史上の人物の系図を作る仕事。たとえば紫式部と清少納言。その孫娘、孫息子は実は恋仲なのね。そんな発見がいっぱい。女たちの系図からは、愛や憎しみまで、一本の線の上に浮かび上がってくる」[…以下略]

さて、調査期間の1980年代後半から2012年までの約30年間をほぼ4年刻みに区切り、「孫息子」出現記事数数の推移をまとめたのが表2である。表2では、読者投稿文における「孫息子」の使用記事数数を（ ）内にそれぞれ示してある。数字は内数である。図1は、表2にもとづいて「孫息子」出現記事数数の全体的な推移をグラフ化したものである。表2および図1によって「孫息子」の出現件数をみると、1980年代にはほとんど用例がみられなかった「孫息子」が、2000年代に入ってから使用件数を伸ばしていることがわかる。ただし新聞社ごとに偏りがあり、2000年代に入ってから朝日新聞における「孫息子」の急増に比べ、毎日新聞・読売新聞での上昇幅はさほど大きくない。読売新聞では1990年代から2010年代にかけて漸増といった程度である。また2000年代初頭には朝日新聞よりも使用件数の多かった毎日新聞では、それをピークに減少に転じている。

表2 「孫息子」の出現状況（全485件）

	'88	'89-'92	'93-'96	'97-'00	'01-'04	'05-'08	'09-'12
朝日	3(1)	4(1)	5(3)	19(14)	36(34)	77(74)	93(84)
毎日	-	-	1	15(9)	48(40)	47(34)	38(19)
読売	-	4(2)	9(2)	14(12)	14(8)	25(17)	33(21)
合計	3(1)	8(3)	15(5)	48(35)	98(82)	149(125)	164(124)

数字は実数（記事件数）、（ ）内は読者投稿記事の件数（内数）

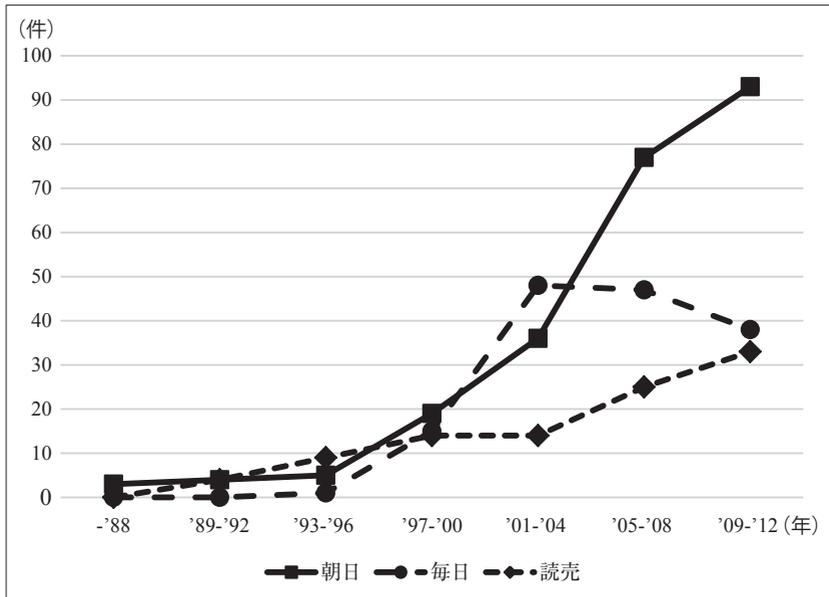


図1 主要3紙における「孫息子」の出現件数とその推移

次の図2は、「孫息子」が使用された記事を記者原稿と読者投稿とに分けて期間ごとに示したものである。表2ならびに図2をみると、「孫息子」が新聞紙面に登場した初期段階（1980年代～1996年）においては、この語は読者投稿記事よりも記者原稿記事の方で使われていたことがわかる。それが、「孫息子」の使用件数が増え始める1997年～2000年を境に読者投稿での使用が記者原稿でのそれを上回るようになり、2000年代に入ってからはおもに

読者投稿において「孫息子」が使用されるようになってきている。この傾向は3紙に共通している。

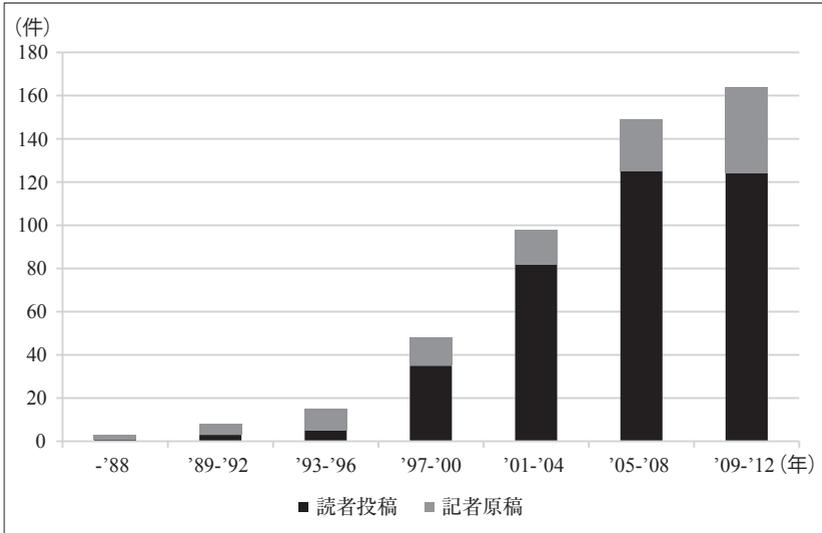


図2 記事のタイプ別に見た「孫息子」の出現件数推移  
(具体的な件数は表2を参照)

#### 4.2. 「孫娘」の使用状況

次に、1980年代後半から2012年の新聞主要3紙における「孫娘」の使用状況についてみていきたい。表3は、表2にならって「孫娘」の使用状況を

表3 「孫娘」の出現状況 (全8,974件)

	'88	'89-'92	'93-'96	'97-'00	'01-'04	'05-'08	'09-'12
朝日	102	189	278	609	773	791	862
毎日	5	57	188	427	619	627	583
読売	54	201	234	314	683	718	660
合計	161	447	700	1,350	2,075	2,136	2,105

数字は実数 (記事件数)

まとめたものである。ただし記者原稿と読者投稿の別は示していない。調査期間中の「孫娘」の使用記事件数は全8,974件で、「孫息子」の約19倍近い件数である。また表2と表3の結果を期間ごとに対照すると、どの期間においても「孫娘」の使用は「孫息子」よりも圧倒的に多いことがわかる。ただし、「孫娘」の使用も1990年代後半から2000年初頭にかけて急激に増加している。ただ、2009年～2012年において出現件数が減少に転じている点で、「孫息子」の場合とは異なっている。

#### 4.3. 新語の出現と社会の高齢化率

ここで、新聞紙面における「孫息子」の出現と増加、ならびに「孫娘」の増加の背景にあるものを探ってみたい。先にみたとおり、「孫息子」の出現は1980年代半ばで、出現頻度の急激な上昇がみられるのは2000年から2008年にかけてである。一方の「孫娘」は、調査期間の初期からすでに一定の使用件数がみられるが、それが急激に上昇するのはやはり2000年から2008年ごろである。これは、日本社会の高齢化が加速しはじめた時期と一致する。内閣府（2014）によると、日本の総人口における65歳以上の人口の割合は、1950年から1980年までの30年間は4.9%から9.1%と緩やかに上昇していたが、次の30年、すなわち1980年から2010年の間に9.1%から23.0%と急激に上昇している。中でも、1995年（14.6%）→2000年（17.4%）→2005年（20.2%）と、1990年代後半から2000年代初めにかけては5年ごとに2.8%ずつ増加しており、高齢化に拍車がかかっている。本稿の調査対象期間中、およびこれに近い時期における高齢化率のデータと、「孫息子」「孫娘」の使用頻度を対照すると表4のようになる。表4にみるとおり、高齢化の加速する1995年～2005年ごろというのが、ちょうど「孫息子」「孫娘」の使用頻度の上昇する時期と重なっている。このことと先にみた図2の結果から、「孫息子」の出現と増加は次のように考えることができる。すなわち、高齢化が進むにつれて高齢者が自身の孫について言及する機会が増え、孫の性別が明示的である表現が好まれるようになり、結果として「孫息子」という語の使用頻度が高

くなった、というわけである。話しことばではなく新聞記事において「孫息子」が使われるのは、限られた字数のなかでできるだけ多くの情報を盛り込むことが必要だからであろう。この点については次節でも検討する。

表4 新聞における「孫息子」「孫娘」の出現頻度と高齢化率の推移（1985年～2013年）

年	～1988	～1992	～1996	～2000	～2004	～2008	～2012
「孫息子」	3	8	15	48	98	149	164
「孫娘」	161	447	700	1,350	2,075	2,136	2,105
年	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2013
高齢化率	10.3	12.1	14.6	17.4	20.2	23.0	25.1

高齢化率（％）は内閣府（2014）による。「孫息子」「孫娘」の数値は新聞記事の件数（実数）。

## 5. 毎日新聞にみる「孫息子」の使用状況

本節では、主要3紙のうち毎日新聞に焦点をしぼり、次の三つの観点から、「孫息子」がだれによって・どのように使用されているかをみていきたい。

- ① 「孫息子」を使用する書き手の属性（読者投稿について）
- ② 「孫息子」が使用されている記事における「孫」「孫娘」の使われ方
- ③ 記事内における「孫息子」の出現位置

以下、①について §5.1 で、②について §5.2 で、③について §5.3 で分析する。

### 5.1. 「孫息子」を使用する人のタイプ

毎日新聞の読者投稿記事のなかで「孫息子」が使用されていた記事は101件であった。この101件のうち、書き手の年齢が明示されていたものは91件、記事中から書き手の性別が判断できたものは100件であった。その内訳を示したのが表5である。

書き手の年齢はもっとも若い人で32歳（女性）、もっとも高齢の人で89歳

(男性)であった。性別では、「孫息子」の使用は男性よりも女性に多い。男性の投稿では、1例を除いていずれも「孫息子」は自身の男孫を指して使われている(17例)。女性の投稿では、自身の男孫を指す例が76例、そうでない例が6例あった。総じて、「孫息子」は自身の男孫を指して使われている。自身の男孫でない場合は、書き手の父母や義父母の視点から自身の息子を「孫息子」と言及する例が5例、第三者の男孫を「孫息子」と称するもの、ものたえとして「自分の孫息子だと思って」のような使い方をしているものがそれぞれ1例あった。

「孫息子」の使用には、地域的な偏りがみられた。表6は「孫息子」使用者を居住地別に分けて示したものである。地域区分は東北・関東・甲信越・東海・北陸・関西・中国・四国・九州・沖縄の10区分としたが、東北・四国・沖縄在住者による使用例はみられなかった。表6にみるとおり、「孫息子」の使用者は男女ともに九州に多く、次いで関西、中国と、西日本に偏っているようである。「孫息子」の使用になぜこのような地域差がみられるのかに

表5 毎日新聞・読者投稿記事における「孫息子」の使用者(性差・年齢差)

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	計
男性	-	-	-	5	10	2	1	18
女性	2	2	11	38	16	5	8	82
不明	-	-	-	-	-	-	1	1
計	2	2	11	43	26	7	10	101

単位：件

表6 毎日新聞・読者投稿記事における「孫息子」の使用者(地域差)

	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国	九州	計
男性		1	1		1	2	13	18
女性	7	1		8	19	15	32	82
不明		1			1			1
計	7	3	1	8	21	17	45	101

単位：件

については、現時点では有力な手がかりを得ていない。ただし、地域差だけでなく性差・年齢差にもいえることであるが、そもそも孫をテーマにした読者投稿がある属性に偏っているのか、それとも、孫についての同数程度の投稿がある中で「孫息子」の使用に属性差がみられるのかといった点を確認する必要があるため、ここでは結果を提示するに留めておきたい。

## 5.2. 「孫息子」使用の要因①：他の孫との対比

ここで、新聞記事において「孫息子」が使用される要因について考えてみたい。「孫息子」が使用されている記事を見ると、他の孫（女孫）との対比の必要性から「孫息子」が使われているとみられる例がある。以下、用例中の波線、下線、破線および二重下線はいずれも筆者による。

(12) 《投稿／毎日（地方版・奈良）2006.09.10》

### みずぐき：孫達の里帰り

結婚して6年目に末娘が女の子を出産した。この夏は生後2カ月の赤ちゃんをつれて初めての里帰りである。そこへ長女が高3、中2の孫と共に、また二女も中1と小3の孫をつれて里帰りをした。

部屋中いっぱい荷物と玄関にはみ出した孫達の大きな靴を見ただけで、若いエネルギーに圧倒される。

孫が小さかった頃、同じように里帰りをし、プールへ行ったり、花火の相手をしてくれた娘婿達は「まるで合宿をしているようですねえ」と言ってこの頃寄りつかなくなってきた。

娘や孫達は籠の中に眠っている赤ちゃんをとり囲み、かわるがわる抱っこしたり、相手になっていた。

上の孫娘は、今年大学受験の年。中2の孫娘は空手道場にかよい、中1の孫息子はバスケットクラブに入部して日曜日も練習に行っている。集団検診で心臓の方で引っかかったと聞いたが大丈夫だろうか。小3の孫娘もこの頃、口が達者になってきて話をしていておもしろい。

2学期が始まった今、孫達と共に過ごした夏の日々を想い出す<sup>ママ</sup>、虫の鳴き声を聞きながら、それぞれの孫達のために祈るこの頃である。

時々パソコンに送られて来る3カ月になった赤ちゃんの写真を見ながら元気をもらっている私達老夫婦である。

[奈良県河合町・女性・主婦・70歳]

この例には5人の孫が登場するが、書き手は、複数の孫について言及する際には「孫」を用い、女孫については主として「孫娘」、男孫には「孫息子」を使用している。例外として、乳児（女児）についてのみ、「赤ちゃん」と言及している。このように、複数の孫について、「孫娘」と対比させる形で「孫息子」を使用していた例は、用例101件のうち23件にみられた。

### 5.3. 「孫息子」使用の要因②：情報量

先の例とは違い、一人の孫についてしか言及されていなくても「孫息子」が使われる場合がある。この場合には、本文中で一貫して「孫息子」が使われているケースと、初出語とうけつき語とで使い分けられているケースとがある。たとえば(13)～(15)では、初出語が「孫息子」で、その後のうけつき語として「孫」「彼」「この子」などが用いられている。

(13) 《投稿／毎日（全国）2012.05.18》

#### みんなの広場：晴天祈る！ 金環日食の観察会

21日は国内の太平洋側の地域を中心に、25年ぶりに金環日食を見ることができる。富山県黒部市の全15小中学校では登校時間を約30分前倒しし、約3400人の児童生徒全員に日食専用のグラスを配って観察会を実施するという。

富山県内では残念ながら部分日食になるようだが、それでも多くの人が魂を揺さぶられる体験をすることだろう。子供たちにとっても千載一遇のチャンスである。09年の皆既日食の時は、小学4年生の孫息子から「今、太陽が一番欠けているよ」という電話があった。

そして「良かったよ」と、感動したような声が電話口から伝わってきた。その孫も今は中学生になった。[…以下略]

[富山県高岡市・男性・無職・89歳]

(14) 《投稿／毎日（全国）2010.07.07》

**男の気持ち：入れ歯の功罪**

[…中略…] 近くに住む幼稚園の孫息子がやってくる。「じいちゃん歯を見せて」と言う。下の歯の2本抜けているのを見せると「可愛い、お姉ちゃんといっしょ」と乳歯の抜けた姉と比べた。

「これはどうだ！」と全部入れ歯の上の歯を外して見せると「うわ〜怖え〜」と身震いする。「歯を磨かんと、こんなになるぞ」と脅したところ、それ以来彼は歯磨きを欠かさずするようになった。親せきの寄り合いでは「うちの子にも歯を見せて」と評判だ。[…以下略]

[福岡県宗像市・男性・職業不明・68歳]

(15) 《投稿／毎日（全国）2005.07.06》

**女の気持ち：孫のカンパーイ**

「カンパーイ」。2歳になった孫息子が、はっきり発音できる唯一の単語です。自分用のマグカップをあげながら可愛い声で言うのです。たまたま訪れて夕食を共にした私たちは、彼の「カンパーイ」の言葉にびっくりさせられました。

「カンパーイ」が、コップなり湯のみなりを右手であげる行為を指し、心弾む楽しさを意味する言葉だということを、彼は理解しているようです。

お酒好きの遺伝子を受け継いでいるのが、この年で早くも現れたのかと、一瞬どきりとしましたが、コップの中身に彼の関心はまだないようです。この子の父母が夕食時に毎日やっていることを見習って、何か楽しげな気分になれる「カンパーイ」を始めるようになったのでしょうか。

この子の両親が「カンパニー」と言ってみせ、この子がそれにつられて「カンパニー」と叫ぶ夕食の光景を思い浮かべると、何かほのぼのとしたものが胸に広がります。私も2人の息子を育てましたが、仕事や家事に追われて、夕食はあわただしく済ましていました。  
[…以下略]

[長崎県諫早市・女性・薬剤師・63歳]

このような「孫息子」は、言及対象が「(だれかにとっての) 子の子」であり、かつ「男性」であるという二つの情報を効率よく表すために使われているとみることができる。字数の限られている紙面であればこそ、「孫息子」の誕生であると考えられる。このような、初出語が「孫息子」であるケースは64例みられた。また本文中で一貫して(初出語においてもうけつぎ語においても)「孫息子」が使用されているケースは8例であった。

## 6. 「孫息子」の誕生から拡散へ

前節でみたように、新聞紙面上の記事における「孫息子」という語は、言及対象の属性を一語でより詳細に表現できることから使用が広がったとみることができる。この「孫息子」という語の誕生から拡散までのプロセスは図3のように考えることができる。

辞書的な意味では、「孫」は単に「(だれかの) 子の子」を表す語であり、男女どちらに対しても用いることができるものである。しかし、女孫である

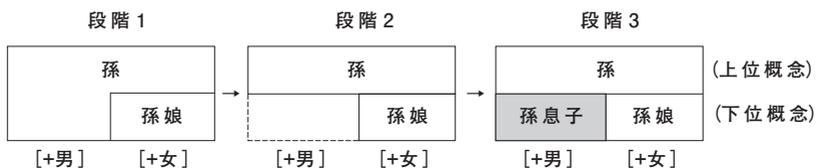


図3 「子の子」を表す親族語彙の変遷

ことを明示的に表す「孫娘」という語が古くからあること、そしてその対概念を明示する語が近年まで存在していなかったことから、伝統的には「孫」という語が「(だれかの)子の子」という上位概念を表す語であるだけでなく、「(だれかの)子の子であり、男性」であることを表す語でもあったことがわかる(段階1)。つまり、家督を継ぐ者(男性)を中心に家が考えられていた時代には、家を継がない孫、すなわち女孫だけが有標の語で表されていたわけである。しかし、家制度が廃止され、家族における男性優位の考え方が薄れるにつれ、「孫」が表す意味内容も「(だれかの)子の子」という上位概念のみに固定されるようになり、体系に「あきま」が生じた(段階2)。この「あきま」を埋めるために、「孫娘」からの類推によって「孫息子」という語が誕生した(段階3)。

新聞データベースにおける「孫息子」の使用状況から考えるに、現代は段階2から段階3へ進む過渡的な段階といえそうである。ただし、「孫息子」はあくまでも書きことば中心の語であり、話しことばとしてどの程度定着しているかについては未知数である。字数の限られた紙面において、少ない文字数でより多くの情報量を提供することを動機として誕生したと考えると、「孫息子」が話しことばの領域へも浸透する可能性は低いように思われる。

## 7. まとめと今後の課題

本稿では、新聞データベースを資料として、新語「孫息子」の出現件数の推移とその使用者属性を分析し、新語誕生の要因について考察した。本稿で明らかになったのは次の点である。

- ① 出現時期：「孫息子」という語はいつごろから使われるようになったのか (§4)
  - 新聞データベースにおける初出は1984年、朝日新聞の記者原稿においてである。
  - 「孫息子」が出現し、「孫娘」とともに使用数を伸ばす時期は、日

本社会の高齢化が加速した時期と重なっている。

- ② 使用者：「孫息子」を使用するのはどのような属性の人か（§5.1）  
→60代以上で、男性よりも女性の使用が目立っていた。  
→書き手の居住地別では、九州地方在住者による使用が目立つ。
- ③ 使用要因：新聞記事で「孫息子」が使われるようになったのはなぜか（§5.2、§5.3）  
→語彙体系として男孫であることを明示的に表す語が存在しなかったこと、「孫娘」のように一語でより多くの情報を読み手に提供できる語が必要になったこと、が主たる要因として挙げられる。

本稿では、具体的な分析については毎日新聞の101件分しか扱うことができなかった。また「孫息子」の上位概念である「孫」の使用状況や、記者原稿における「孫息子」の使用状況についても、今回の分析をふまえて明らかにする必要がある。今後、朝日新聞・読売新聞についても同様の分析をし、「孫息子」の使われ方についてより詳細に検討したい。「孫息子」使用の地域差についても、引き続き考えていきたい。

#### [付記]

本稿は、第149回変異理論研究会(2013年1月26日、於・大阪大学)における発表に加筆・修正したものである。席上、二階堂整氏(福岡女学院大学)、西尾純二氏(大阪府立大学)のお二方から有益なコメントを頂戴した。記して御礼申し上げる。

#### [注]

- 1) 以下、新聞データベースから得た用例については、読者投稿によるものを「投稿」、記者原稿を「記者」と記し、続けて新聞社の別(朝日/毎日/読売)、全国紙面であるか否か(全国/地方(地方名))、記事の年月日の順に《 》内に記す。
- 2) 読者による投稿原稿における書き手の情報については、記事本文末尾[ ]内にまとめて記す。ただし、情報が記事本文と重複する場合には繰り返すこと

をしない。

[引用文献・参照ウェブサイト]

三省堂ワードワイズ・ウェブ「三省堂国語辞典 第七版」

<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/sankok7/>(2017.08.31 閲覧)

内閣府(2014)『平成 26 年高齢社会白書』

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/zenbun/index.html> (2017.08.31 閲覧)

橋本行洋(2007)「語彙史・語構成史上の「よるごはん」」『日本語の研究』3-4:33-47

道浦俊彦 TIME「新・ことば事情」4128 回「孫娘」

<http://www.ytv.co.jp/michiura/time/2010/08/post-474.html> (2017.08.31 閲覧)

(文学研究科准教授)

## SUMMARY

The New Compound Word *mago+musuko* Representing 'Grandson' in Japanese Used in the Newspaper Articles

Chie TAKAGI

This paper examines the new word *mago+musuko* (*lit.* grandchild son) standing for 'grandson' in Japanese used in the newspaper. Japanese kinship terminology is systematically unbalanced since it does not have a general word for 'grandson', although it has *mago* for 'grandchild' and *mago+musume* (*lit.* grandchild daughter) for 'granddaughter'. However, a word *mago+musuko* has come to be used recently to refer 'grandson' in the newspaper articles written by journalists or posted by readers. It is different from a word *mago+musume* found in many dictionaries, and it is clear that *mago+musuko* is formed by analogy from that compound word.

This study analyzed the text database of three major Japanese newspapers, namely the Asahi Shinbun, the Mainichi Shinbun and the Yomiuri Shinbun. Both quantitative and qualitative approaches were applied in the data analysis. These digitalized data of the newspaper articles between mid 1980's and 2012 found the earliest use of *mago+musuko* in the Asahi Shinbun in 1984. The quantitative analysis indicated that the number of the use increased radically from early 2000's. The data also showed that the number of the word *mago+musume* increased from that time consistently as the aging of Japan accelerated in which the aging rate exceeded fourteen percent of the national population. This fact implies that the aging society contributes more occasion to give a topic about their grandchildren. Moreover, it motivates them to form a new word for 'grandson' as *mago+musume* to represent 'granddaughter'.

The qualitative analysis of the text data indicates that *mago+musuko* is mostly found in the articles posted by senior readers to specify the gender of their grandchildren. It appears in the first part of the article, and the same person is mentioned by the other word, such as *mago* in the later part. Hence, the limitation of the numbers of characters in the newspaper articles is another motivation to form the new word since fewer words are more preferable. This is also the reason why *mago+musuko* appears in Japanese writing rather than speaking.